



お知らせ

- ・コウノトリの郷との交流 9月7日(日) 豊岡
- ・ヴォーリズ六甲山荘 秋の特別公開 9月13日(土)～23日(火・祝)
- ・畑儀文合唱教室 9月22日(月) 草志舎
- ・上期セミナー 第5回 9月27日(土) 六甲山荘 「旧小寺山荘と私」
- ・下期セミナー・近江八幡・ヴォーリズ建築訪問 10月11日(土)
- ・子ども草木染教室 10月18日(土) 六甲山荘
- ・ほりだし市 11月3日(月・祝) 草志舎
- ・下期セミナー・建物の保存を考える in Tokyo 11月8日(金) 栃木県益子
- ・名建築と音楽シリーズ 11月30日(日) 関西学院聖和キャンパス4号館(ダッドレーメモリアルチャペル)
- ・下期セミナー見学会 12月13日(土) 宝塚市雲雀丘花屋敷

**\*ヴォーリズ六甲山荘・秋の特別公開\***

六甲山荘の築80年を記念して、今年は春と秋の連休に特別公開を行っています。春は8日間で190名の来場者があり、お賑わいでした。

秋は**9月13日(土)から23日(火・祝)**までの11日間、連続で公開します。どうぞお知り合いにお声をかけてお誘いください。また期間中のスタッフとしてもご参加ください。お待ちしております。

**予告1**

**アメニティ・アカデミー 2014年度下期セミナー**

アメニティ・アカデミーの2014年度のセミナーは「わたしたちにとって文化遺産とは」をテーマにかかげ、上期は講義で学んできましたが、下期は見学会をおこないます。年内はまず三つの町を訪問します。**滋賀県近江八幡**はヴォーリズの活動の本拠地(10月11日)。**栃木県益子**は陶芸家濱田庄司の活動拠点で陶芸の町(11月8日)。**宝塚市雲雀丘花屋敷**は大正期に開発された住宅地で往時の邸宅が数多く残っている町(12月13日)。いずれもわたしたちにとって大切な文化遺産を受けついでいる町です。

**☆近江八幡・ヴォーリズ建築訪問**

六甲山荘の築80周年の記念事業の一環として、近江八幡でヴォーリズゆかりの建物を訪ねます。近江八幡では今年がヴォーリズ没後50年になることから記念企画展「ヴォーリズ・メモリアル in 近江八幡」が1か月にわたって開催されています。その1日に参加し、ヴォーリズ記念館館長藪秀美氏の案内でゆかりの建物をめぐります。

月日 **10月11日(土)** 集合 午前10時半 近江八幡・白雲館 定員 25名

詳しくは同封の案内チラシあるいはメールでのご案内をごらんください。

**☆建物の保存を考える in Tokyo 益子訪問**

陶芸の町益子は人間国宝の陶芸家濱田庄司が長年住んで制作に励んだ町。当協会が震災支援も行いました。毎年陶器市が盛大にひらかれ、創業200年の藍染工房もがんばっている、人々の暮らしに密着した民芸の町を訪ねましょう。

日時 **11月8日(土)** 集合 12時 JR宇都宮駅東口出入口 定員 25名

詳しくは同封の案内チラシまたはメールでのご案内をごらんください。

**☆大正期に開発された宝塚市雲雀丘・花屋敷の邸宅群 12月13日(土)**

ご案内は次号でお送りします。

## 予告2

### 《親子でアート》 六甲山荘で草木染をたのしもう

六甲山荘での子どものイベント、今年は草木染に挑戦です。山荘の庭で集めた栗のイガや木の葉を使うとどんな色に染まるのか、楽しみですね。

日時 **10月18日(土)** 午前10時～

場所 ヴォーリズ六甲山荘

参加費 子ども(小学生以下) 1,500円 保護者(会員) 2,000円 保護者(一般) 2,500円  
(いずれも材料費、昼食の石窯ピザ込み)

持ち物 汚れてもいいエプロン、厚手のゴム手袋

定員 子どもと保護者のペア 10組(20名) お子さんだけの参加はご遠慮ください

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

### ご報告1 アメニティ・アカデミー セミナー 第4回 7月12日(土) 草志舎

旧グッゲンハイムの管理者森本アリさんと信森さんをお迎えして「旧ジョネス邸の保存運動」についてお話を伺いました。多くの人々の知恵をあつめて活動したけれど、息をむすばなかった悔しい経験を、当事者の方々からお話いただき、アメニティ2000協会がそういうケースの受け皿になれる団体に早くなりたいと実感しました。



### ご報告2 畑儀文の合唱教室 7月14日(月)、9月1日(月) 草志舎

夏休み前の教室の7月は女性ばかりの参加者でしたが、畑さんの朗々たるテノールにあわせて、気持ちよさそうに歌っておられました。9月1日はヴォーリズ作曲の歌が登場しました。ヴォーリズは作曲家としても才能があったのですね。

### ご報告3 第4回神戸ワーキングホリデー 8月5日(火)～8日(金) ヴォーリズ六甲山荘

参加者は少なかったのですが、スタッフと一緒ににぎやかになごやかに作業と遊びに取り組みました。作業は樋の撤去と軒下の砂利敷き、ベランダの清掃、石窯のタイル装飾など、雨や霧のなかでがんばりました。交流会では学生会員の田中翔くんが自分のボランティア活動などについて報告してくれ、若い世代の活躍ぶりを頼もしく聞きました。有馬温泉や野点を楽しんだり、3泊4日のプログラムはあっという間に終了。名残惜しいことでした。期間中作業や料理に通ってくださったスタッフの皆さま、ありがとうございました。



## 予告の予告

### 第24回・名建築と音楽シリーズ・コンサート

久しぶりの名建築と音楽シリーズ、アンサンブル・アメニティのお二人を迎えて、ヴォーリズの建物でひらきます。詳しくは11月号でご案内しますが、この日をカレンダーに書き込んでおいてください。

月日 **11月30日(日)**

場所 関西学院大学聖和キャンパス4号館  
(ダッドレーメモリアルチャペル)

出演 畑儀文(テノール歌手)  
春木浩子(ハープ奏者)

\*ダッドレーメモリアルチャペルはヴォーリズ設計。  
1932年築。

## 文化遺産実態調査はじまる!

文化遺産継承協議会が発足しましたが、初年度は今文化財の抱えています問題を、関係者から直接聞き取り調査によって、明らかにしようという活動を掲げました。そして専門家中心の若手会員がスタッフとなって、7月から調査を開始しています。

第1回は、宝塚にありますオープン・ガーデンでご承知の国登録文化財である正司邸(当協会理事)を訪問しま

した。いろいろな意見交換ができ、有意義な時間でした。写真は、正司氏を囲みスタッフがお話を聞いている場面です。



## 【コラム】 <英国ナショナル・トラストの旅～団長報告その1>

### ナショナルトラストを訪ねて——羊に誘われた旅

森 正人

関空を発ち、アムステルダムを經由してアイルランド共和国のコーク空港に到着しました。予想はしていたものの、夜更けでもあり肌寒く感じました。

以前、司馬遼太郎氏の「愛蘭土紀行」を読んで以来、一度は当地を訪れたいと思っていた私には今回の企画「ケルト文化が色濃く残っているアイルランド共和国（ゲール語）と英国のウェールズ（ウェールズ語）訪問の旅」は見逃せないものでした。

参加メンバーは19名。和気あいあいとした良い雰囲気の中で、企画、天気も良く、添乗員、ガイドにも恵まれ、楽しい9日間を過ごす事が出来ました。なお、訪れたナショナルトラストのプロパティは15か所でした。全ては書き尽くせませんので、少しかいつまんで、報告します。

<アイルランド共和国>

・コークからアイルランド西南部キラニーに向かい、国立公園内にあるケリー周遊路、レディーズビュー（ビクトリア女王が見学した時、絶景に魅了されたのこ）を見学。

緯度はサハリンと同じであるが、近くにメキシコ湾流が流れており、夏は涼しく、冬は温暖な気候で、最近リゾート地として、脚光を浴びています。スペイン、ポルトガルからの観光客が多く、日本人は殆ど訪れないらしい。高い木々は少ないが、緑が多く、牧草地帯が連なっており、国旗の緑を連想させる風景が印象的でした。レストラン、売店での対応も非常に印象が良く、初日からアイルランドファンになってしまいました。体格もアングロサクソン系のように、でかくはなく、日本人でも親近感を覚えます。ガイド嬢によると、宗教面では、キリスト教布教以前は自然崇拝で、「八百万の神」を奉っており、日本の古代と共通項があるとの事。また、公園内には鹿の絶滅に瀕した際に、奈良公園より提供された鹿が野生化しており、バスの中から確認できました。今回のナショナルトラストの旅は天候に恵まれましたが、この初日だけ、少し雨が降りました。おかげで、綺麗な「虹」を見る幸運にも恵まれました。

ケルトの世界では「虹」の下には「妖精」が住んでいると言われています。

当地での宿泊は国立公園内にある湖に面した「The Lake Hotel」。雰囲気、サービスとも申し分なく、レストランでの食事も美味でした。さすが農業国であり、野菜もおいしく、サーモンも新鮮でした。食事時には「Guinness」等のスタウトビールが友達です。何処でも、常温でなく、冷えたのが頂けました。また、自室に戻ってからは、雑貨屋で仕入れたアイリッシュウイスキー「Jameson」を毎晩楽しんでいました。

Lake Hotelからの眺め→



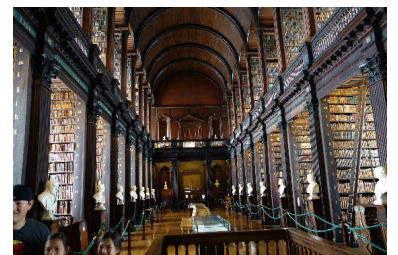
・ナショナルトラスト（以降、NTと記述）のカンターター城、キルケニー城を見学し、首都ダブリンへ向かう。最終目的地であるイングランドのバーミンガム迄、殆ど牧草地を見ながらの羊に誘われた旅になる。

車中、ガイド嬢から懇切丁寧なアイルランドの歴史を聞く事が出来ました。

ケルト系のゲール人の来島、キリスト教布教、修道士の巡礼によるヨーロッパとの接触、デーン人（ヴァイキング）の侵入、イギリスによる征服、ジャガイモ大飢饉による多人数の餓死、米大陸への移民等が複雑に絡み合っているとのことでした。

・ダブリン観光をしながら、NTの「The Tailors Hall」を見学。中世のギルドのホールで現在はナショナルトラストの本部ビルとして使用されています。

トリニティ・カレッジで保管されている「ケルズの書」を拝見。聖書である4大「福音書」の写本です。アイルランド国宝で、優美な装飾が施されています。修道僧にとっては聖書の写本は「祈り」であり「贖罪」の行為であると言われています。初期キリスト教時代のローマからの影響を受けながら、ケルト特有の輪廻を象徴する渦巻き模様や動物や人々が描かれており、大変美しく感激しました。まさしくケルト文化とキリスト教の融合である。



トリニティ・カレッジ図書館

前夜はアイリッシュ・パブでケルティックミュージックとダンスを觀賞、演者と客が盛り上がり楽しいひと時が過ごせました。

<後半は次号に掲載します>

### 予告の予告

### てづくり工房ほりだし市～11月3日（月・祝）開催

毎年恒例のほりだし市です。皆さまからの手作り作品と寄贈品を募集しています。手作り品は特にパン、ケーキ、惣菜が人気です。皆さんが普段作っておられる家庭の味をぜひお寄せください。また地方のお取り寄せで「これは！」というお勧めがありましたら、お知らせください。出品申込書を同封いたします。ご出品の方、ご参加の方はご連絡ください。お待ちしております。

肩の凝らない気楽なマンガ人物伝です。とは言え、彼はコンピュータで世界を変えてしまった人物なのです。大企業や大学等で専門家しか使えなかった初期の大型コンピュータに対して、大人も子供もひとり・ひとりが使いこなせるコンピュータを誕生させたと表現すれば、理解し易いかも解りません。更に”iphone”の発表により、会社を一般的なコンピュータ会社から世界の人々の頭脳になりうる道具を作る会社に変えてしまったと表現しても過言ではないと思います

そう話すと、慣れないIT用語が飛び交ってるのを想像し、苦手意識を持ってしまいがちですが、だからこそ まんが本を手にとって開いて欲しいのです。なかからはお馴染みのりんごをかじったロゴマーク(エピソード;彼はりんごが好きだったのと 頭文字”A”は 電話帳に記載される順番も早いと思ったとか)のアップルコンピュータ社を起業56歳(2011年) 膵臓ガンで亡くなる生涯を、夢と情熱を持ち続けた生きざまを味わわせてくれます

それゆえ日本の若者においても起業を目指し易くなる仕組み作りを、社会全体で担う事を期待したいです。

感動したことばです。 ”Think different”(ちがう考え方をしよう) 弱くなった時のなんと頼もしいひとことでしょう!!

併せて コンピュータの変遷も楽しめる1冊です

出版元: 小学館 学習まんが人物館—Steve Jobs 監修: 大谷和利

出版元: 集英社 学習漫画世界の伝記NEXT—スティーブ・ジョブズ 監修: 桑原晃弥

◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

**アイランド イギリスのナショナルトラスト  
の旅の印象**

安場 温子

今回初めてこの旅行に参加して アイランド・イギリスの果てしなく続く緑の牧場と羊 牛の群れ 咲き乱れる花々(特に山肌を染めるシャクナゲ)そして 数百年にわたって残されている遺跡 当時の姿を今に残している城塞や館の数々 全て心奪われる数日間だった。

アイランド・イギリスは樺太の北半分くらいの緯度にあいながら暖流のお陰で温暖だというのが 一日にすべての天気があると言われる通り 晴れたり曇ったり降ったり・・・の中で 湖に映って円形に近い形となった虹を見たりしながら・・・幸いにもバスを降りると晴れることがほとんどだった。

訪問地はすべて選りすぐりの場所で 今すべての印象を書くことはできないがナショナルトラスト活動(NT)により保存 維持されている所の印象をいくつか書いてみようと思う。

まずは アイランドの400年前前に建てられたというカンターク城。現在は廃墟となって 屋根は落ちていますが大小様々な自然の形を残したような石が緻密に積み上げられていて 城の外形はビクともしないで残されている。

ダブリンに入ると300年前前に建てられたという最古のギルドホールであるテイラーズホール。仕立て屋等労働者の会合や教会 アイランド独立の革命の集会所として使われ 今はアイランドのNTの本部として使われている。

世界で最も美しい本といわれる 8cの聖書の写本の

残るトリニティカレッジを見学してフェリーの乗り場へ。途中シュロ?の南国風の並木道を通ったが葉の分量を大きく上回るほどの花がこんもりと咲き揃っているのに驚いた。

イギリスに渡りウェールズでの宿泊はNTが所有 運営するボディスガレンホール。600年位前にコンウィ城の要塞として建てられたという 四方の見晴らしがきき 人工物をはるかに見えるコンウィ城位という素晴らしい立地。その後貴族の館として使用され17世紀に増築や整備が重ねられたという建物も庭もすばらしい。数本の塔を持つ建物は外観も美しいし内部も中世の雰囲気たっぷりここで宿泊できるのだ。広大な庭園は何区画かに生垣で区分され ローズガーデン ハーブの庭 滝の庭 自然を残す場所等々 変化にとんでいる。ここを維持 管理 運営しているのがNTだと聞いて驚かされた。

このような規模のNTの城は沢山あって いくつか書いてみると

14c初頭に完成したというチャーク城 城壁に真っ白に咲いたツルアジサイが印象的 色とりどりの花咲く庭園 牧場。1920年代に写されたという写真には整然と植えられた木が並んでいるが 今は大きく成長して一続きの城壁のように刈り込まれている。 内部も中世の雰囲気が残されている。

13cにウェールズの王によって建てられ16c 貴族の居城となったポーウィス城。インド貿易による富豪どうしの結婚により購入されたという。 内部も豪華けんら

ん。孔雀が羽を広げて我々を迎えてくれた。庭園も花々はもちろん生垣が巨大化して壁のように又石垣のように刈り込まれている。手入れにクレーンを使っているようだ。

ウィリアムモリスのデザインで内部が統一されたホワイトウィックマナーは 樹齢何百年かと思われる赤ブナの大木越しに見える 壁に美しくデザインされた木組の見えるハーフトィンバー様式の建物は本当に美しい絵のようだ。

1600年創建のチャールズIIの隠れ家だったというモーズリーオールドホールでは台所で貴族が食器として使ったという固いパンが再現されていて 使用後は使用人がそれを食べていたという話を聞いて 今まで沢山の豪華な城などを見てきたがその陰にある庶民の存在がしのばれた。

1920年代まで豪農が住んでいたというバックウッドハウスはロフトのある部屋や複雑なメカニズムの見える大きな金庫 ハープシコードのような楽器が残されており 庭の12使徒を象徴するイチイの刈り込みが有名とのこと。産業革命により生まれた富裕層に宗教改革により不用となった僧院や修道院を払い下げたという。このような新興上流階級の人々にジェントルという位が新たに与えられ その誇りを保つため公共の福祉に寄与したり礼儀を意識しこれがイギリスジェントルマンのいわれだという説明を興味深く聞いた。

豪華な城のみならず 歴史的な価値のある遺構も多く保存されていて まずは 16cに聖書をラテン語からウェールズ語に訳したウィリアムモーガン大司教の小川のほとりのかわいい石造りの生家。 394年頃までは使われていたというローマ時代の遺跡。街を囲む城壁の一部として残っている小さなタワー。 崖の斜面を掘りこんで造られたという 住居跡は1950年代まで実際に住んでいたといい 家具調度もそのままに残されその生活がしのばれるものだった。

等々きりがなが大きな城から小さな遺跡まで歴史的遺構を残そうという意気込みの強さは国もEUも協力をおしませず そして英国人口の5%強がNTのメンバーという裾野の広さがこれらを支えているのだと実感した。

アメニティ2000の活動も規模の大きさはもちろん比べべくもないが 湿気が多い六甲山中で 木造でありながら80年変わらず建っている山荘を守ろうという意図意気込みは同じなのだと感じた。



## 《六甲山荘と同期生の名建築を阪神間にたずねる～その4》

《神戸大学兼松記念館》 所在地：神戸市灘区六甲台町

神戸大学の前身、旧神戸商業大学兼松記念館として建設された。設計文部省。国登録有形文化財。鉄筋コンクリート造。外壁はベージュ色のスクラッチタイル貼り。余分な装飾もなく、窓が整然とならぶいかにも学舎らしい外見だが、上階のアーチ窓、堂々とした階段をそなえた玄関ホール、高い天井など、威厳と風格のある建物である。特に2階の記念室は重厚優美な内装がほどこされている。

兼松記念館の名称は兼松房治郎（兼松商店・現兼松株式会社の創業者）によっている。旧制神戸高等商業学校時代の1920年（大正9年）に兼松翁記念会からの寄付によって建てられた研究所が最初の兼松記念館である。（武田五一設計・現存せず）現在の記念館の玄関上部には旧記念館の門標がはめ込まれている。



### 六甲山荘たより

### 7月、8月の六甲山荘

夏はヴォーリズ六甲山荘の本領発揮のシーズン。コアジサイに始まってシチダンカ、紫のアジサイ、白いアジサイ、ガクアジサイ、と建物はアジサイに埋もれてしまいそうです。7月8月の来場者数は94名でした。宿泊も始まり7組が10泊、延べ41名の方が宿泊されました。

ただ梅雨が明けたと思ったら8月はじめから雨がふりはじめ、直撃台風をはさんでの長雨のため、六甲山への道路は大きな被害を受けました。山荘も台風と大雨のため2日休館を余儀なくされました。山荘自体は北庭の木が1本折れただけで、建物には被害がなかったのは幸いでした。



## 六甲山荘の作業

8月18日 男性陣5名が集まって大作業をしました。台風による倒木の始末と樋の作業です。ベランダ以外は樋をはずし、軒下には排水の流れをつくり、雨の撥ねをふせぐ砂利を敷くのです。ワーキングホリデーで始めた作業の続きです。高い梯子に乗っての作業も気をつけなければいけません。一番大変なのは砂利運びです。なにしろ1袋の重さが30キロから50キロ！全部で750キロもの砂利を敷きましたが、まだ作業は半分ほど残っています。

次回の作業にぜひ皆さん、ご参加ください。



玄関前の砂利敷き



石窯前の倒木



倒木を切断して始末する

## 六甲山荘の模型ができました

会員の中川裕之さんはプロの建築模型作家で、このたび六甲山荘の模型を作ってくださいました。大きさは2種類で、1/150は27×19センチ(50000円)、1/300は12.5×9センチ(6000円)。現物は山荘に置いてあります。1個ずつの手作りですので、注文生産となります。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



## 六甲山荘のスタッフ募集

いつもお願いしていますが、六甲山荘の運営にかかわるスタッフはすべて会員のボランティアです。公開中の受付、販売、喫茶、ガイドのスタッフを別紙で募集しています。誰にでもできる内容ですので、初めての方もぜひ一度トライしてみてください。

**募金のご報告～6月7月に次の方々から募金をいただきました。ありがとうございます。(敬称略)**

### **\* トラスト募金**

《6月7月合計 78,500円

2014年度累計 256,000円》

### **\* 教育募金**

《6月7月合計 15,000円

2014年度累計 30,000円》